

ふるさとの民話 (第五十三話)

『そこなしの池 (底無しの池)』

「そこなしの池 (またの名、釣鐘池)」のあたりに、昔、「金剛坊、融福院」という寺がありました。いつの時代か、大いに栄えていたらしい。

ところが、戦国時代、上杉勢が城山を攻めにきた時、行きか帰りか、

能登坂付近の戦いがありました。その戦いで、それらの寺々が灰塵となりました。その時、奇特で太刀持ちの坊さんが、この寺の釣鐘を付近の池へ放り込んだとの言い伝えがある。

その後、いつの時代か、村の若い衆が、その釣鐘を引き上げようと考え、その池を掘ってみました。しかし、どれだけ掘っても釣鐘が出ないで、泥水ばかりでした。更に、掘っていくと水が湧くばかりでした。

それから、この池を「そこなしの池 (底無しの池)」という名がついたといえます。その池は、現在、「菊理姫神社」の裏にあります。

(若林町 伝承 武内喜男 集録)

